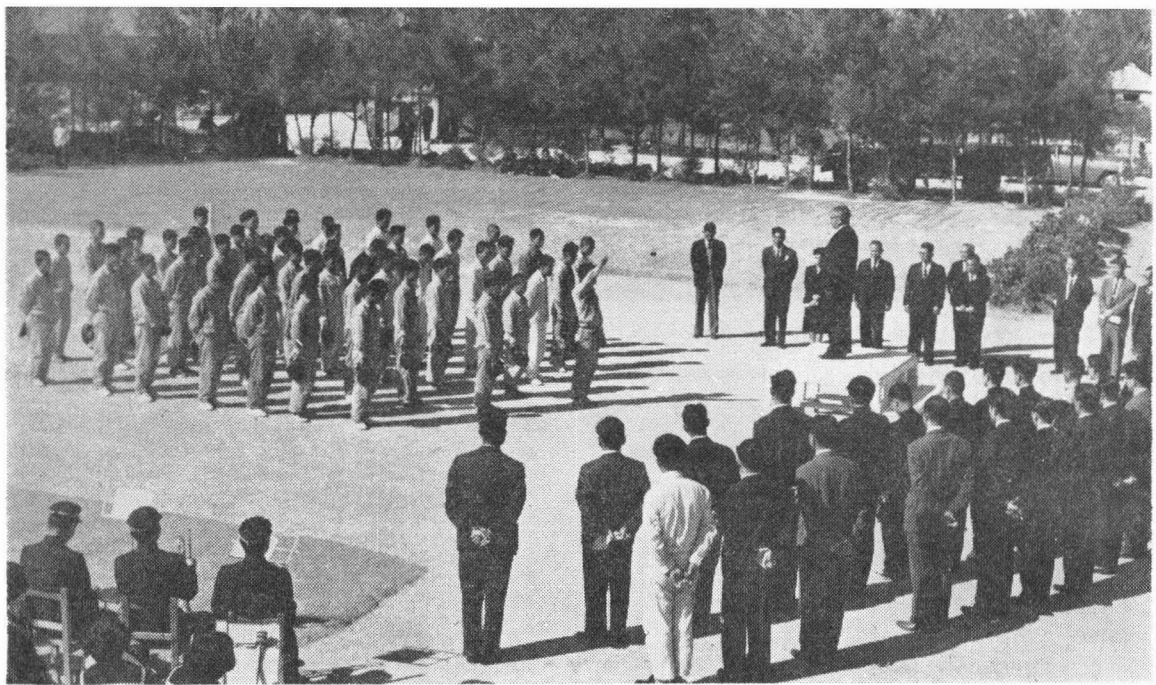


琉球大学学術リポジトリ

伸びゆく明日の農業者 —第8回FFO大会から—

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20408



開会式で正々堂々の選手宣誓の場面

伸びゆく 明日の農業者

——第8回 F F O 大会から——

第8回沖繩学校農業クラブ（F F O）大会は去つた1月23、24日の2日間、同クラブ連盟後援会、文教局、アジャ財団の後援によつて北部農林高校で開かれた。

参加校は八重山、宮古、南部、中部、北部の各農林高校と農業コースをもつ久米島高校の6校であつた。

小春日和の好天候に恵まれた初日の開会は午前11時、北農高校バンドによるF F Jの歌の吹奏も高らかに名護のうらわは、はやくも香り高い雰囲気をつたよわせた。

式場に勢揃いした各校選手の日やけた顔は、土と取り組む若人の意気と熱を物語り、農学徒ならではの見られぬ風景であつた。

来賓として小波蔵文教局長、同職業指導課職員、民政府文教部長キンカー博士、琉大ミンガンミツシヨ教授フェル博士等の外に、遙々本土からアジャ財団代表のシュワントス博士、日本連盟成人代表丸山玄吉氏、同生徒代表浜中君らが列席され、いかに同大会が意義深いものであるかを感じせしめた。

式に続き11時30分からは早速各種の技術競技が展開された。トランソット測量、平板測量及び耕うんの三種目の中、耕うん機による耕うん競技は去年までの家畜審査に代る新しいものである。科学農業の足音と共にどしどし農業機械が取入れられつつある今日、静かな北部農村の山々からはエンジンの音が威勢よくこだまし、何時し競技場の周囲には多数の農民達がくぎづけされていた

2日目は名護町内の映画館で総会と発表会が催された。日ごろ、勉学にいそしむ学生とはほぼ縁遠い娯楽の殿堂は、定刻の9時30分には身動きもできぬほどに農学徒で詰まり、たちまちにして農業文化の殿堂と化した。

総会は先ず議長団選出に始まり、会計報告、新連盟会長及び新連盟成人代表選出、日本学校農業クラブ大会参加者報告などが行われた。

11時から3時30分までは各校代表によりプロジェクト発表及びデモンストレーションが行われた。審査員の話では年を重ねる毎に発表力と内容が非常に充実してきたとのことであつた。特に注目されるのはどの発表者も实际的で且つ地域性に富んだ研究活動を行つていることであつた。南、中、北農高校かり出しの合同バンドの元気はつらつとしたメロディーに迎えられ、そして壇上を退る発表者はどちらも自信に満ち溢れ、満堂の聴衆はその雰囲気に乗じて盛んに声援をおくつていた。

楽しい昼食の時間を利用してのレクリエーション大会は、生徒らしい一歩進んだプログラムの立て方だつた。また北農家庭クラブの日ごろの勉強が功を奏し、安くておいしい折弁当が配られ、みんなをほくほくさせるなど家庭的な和やかな風景をみせた。

発表会に引続いて来賓の祝辞が述べられた。

先ず小波蔵文教局長の「職業教育は今日の社会の要求であり、非常に大切である。若き諸君は明日の農業者と

耕うん機がすけば、そのあとを審査員達が、耕深は？
間かくは？
などと尺をあてるところ。



しての自覚と責任を………」という祝辞に続いて、安里琉大学長は「普通、先進国では農業人口が少ない。にもかかわらず、アメリカなどでは生産物が余るくらいである。沖縄でも自給の線に添うて農産物の増大は急務であると考え。それには若き農学徒諸君の努力が大いに期待される」と励ました。また「私は本日の諸君の発表活動のみで、今日のハイティーン、特に農学徒は信頼性の高いものであるということを再確認し、こんなに嬉しいことはない」と喜ばれた。

また、遙々東京のアジャ財団を代表して列席したシュワルテス博士は「アジャ財団は米国の民間団体で文化発展の為にある。アジャ財団はみなさんの意見にもとづいて職業教育の発展に努力をしている。二度ある事は三度の例の通り今後も出席したい。勉学とクラブ活動を通して真の人間性を確立せよ。私の父もウイスコンシン州で農業をしていたので、農業はいかに大切なものであるかを知っている」と上手な日本語で話し、拍手をあびた。

更に、日本連盟成人代表の丸山さんは「会場も参加人数も日本における大会よりも小さいが、熱意と内容は決して劣るものではない。本会に出席したことはF F Jに記念すべき1ページである。次代を担う諸君は世界のリーダーとして奮斗せよ」と激励された。

最後に、日本連盟生徒代表の浜中君は「6日間に亘つて直接沖縄を見る、聞く、話す機会を得る事が出来、よいおみやげであると喜んでいる。

F F OがF F Jに正式に加盟出来たのは、こちらの先生方と会員のみなさまの努力のたまものである」と友情をこめて語った。

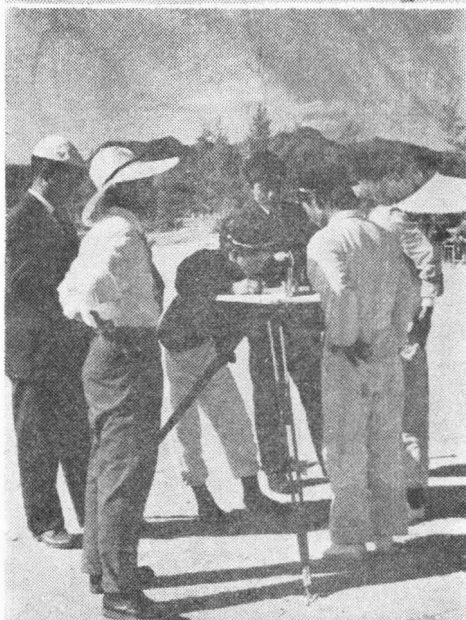
次は各代表によるプロジェクト発表の要旨であるが、記事ふくそうのため、客土による不良化水田の改良（八重山農高）とトマトの早熟及び抑制栽培（南農高）とN:Co. 310品種とP. O. J. 2725の収量比較（宮古農高）の3つはかつあします。

また、プロジェクト発表と前後して行われたデモンストレーションは満堂の観衆の興味をわかった。

ものの10数分には見事な製品ができ上がったからである。各校代表のチームワークはさながら機械のオートメ



もうチョイ右、左、上、下とトランシット測量の選手達。
しかし、スピードよりは正確さが測量のひけつとが。



競技は競技でも走るわけにはいかない平板測量。



ーション作業みたいで、どちらもそんな色なく、熱心な発表活動を展開し、努力のあとをうかがわせた。その発表テーマは、**◆パイン粕 サイレージの作り方**（北農高）
◆ザルの作り方（久米島高校）**◆農家で簡単に出来るカボチャジャムの作り方**（中農高）**◆ローゼルの漬物**（八重山農高）**◆牛乳の検査**（宮古農高）**◆ソテツの澱粉アメ製造実験**（南農高）の6つであるが、いずれも記事ふくそうのためかつあいます。（古謝 瑞幸）

上 みんな畑の土をふんで大にぎわい
 中 身も心も静まるように連盟旗入場（2日目）
 下 プロジェクト発表風景（北農代表）



（プロジェクト発表の要旨）

端境期における私のキュウリ栽培

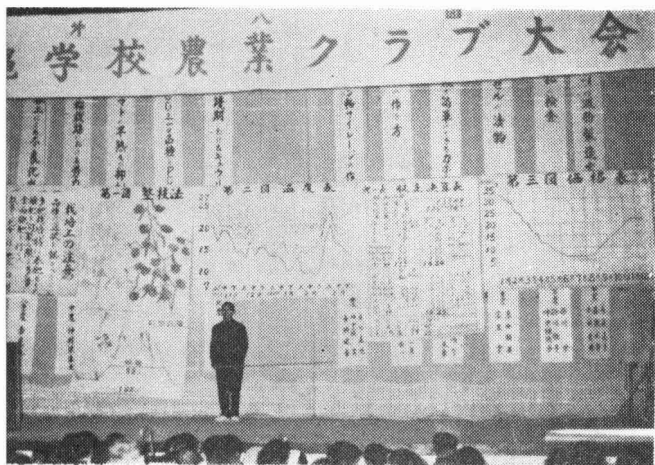
北農高校3年 田 仲 康 昭

「自分の学資位は自分でかせごう」と決心してキュウリ栽培のプロジェクトを実施した。

1月から3月まではキュウリの出荷が少なく、値段が高いので、その時期を収穫期にした方が最良の手段である。プロジェクト用地として兄から2アールの水田をゆづりうけた。

2コールに対して厩肥600Kg、鶏糞120Kg、野菜用化成肥料30kgを同時にすき込んだ。キュウリの品種は寒さに強い「青葉」をえらんだ。

11月5日に種をまいたら5日後には殆んど発芽した。12月には早速、支柱と防風しょうを立てた。1月からは薬剤散布も1週1回を原則とし、その外に雨降り後は必ず行った。2月3日から収穫が始まり、約3ヶ月間も続いた。こうして努力した結果、738kgのキュウリの収穫に対し、130弗74仙の総売上高を記録した。総支出は自給の厩肥と材料代を除いて31弗49仙で、差引残高の99弗25仙が純益である。このプロジェクトを通じて感じた事は、学理と経験を一体にして努力すれば、沖縄においては寒さのための栽培不可能な野菜はないだろうという事であった。



水稲栽培の

労力節減と増収をめざして

中農高校3年 仲村 渠 盛 文

沖縄は年間9万トンの米の消費に対し、自給度は僅かその30%で、残りの70%は輸入されている。その原因は水田面積が小さい上に、労働生産が余りにも低いということであるように思われる。水稲栽培の合理化はいかんとして労力を節減し、増収を図るかという所に問題があることを痛感し、水稲栽培のホームプロジェクトを実行した。

プロジェクト用地はコザ市照屋のジャガル地帯で、越来ダムの水利がある。面積は59及60年次の両期作とも各々5アール。初年度は地域の耕種基準によつて栽培し、次年度は耕うん、脱穀に動力を使用した。耕深は第1期15cm、第2期16cmとし、推肥は両期とも750kgとした水稲調査は1期作41.5kg、2期作31.5kg施し、初年度に比べてやや増収。また初年度の正方形植に対し、30cm×12cmの並木植をした。

以上の方法により、初年度の所要労力は1期作128時間、2期作121時間であった。収量はモミにして1期作182kg、2期作156kg。

主に労力を用する作業は収穫調整、田植、植付準備、中耕除草、水田耕起などの順である。次年度は、これらの労力節減を目標に、機械力の導入と栽植様式を変えたために、水田耕起 17.5 時間、植付準備 10.5 時間、田植 2.5時間、収穫調整 7.5時間の労力を節減し、1期作52kg、2期作91kg増収した。

この実績から収支概算を出してみると、収入は初年度の1期作38弗50仙、2期作33弗、次年度は1期作49弗50仙、2期作52弗25仙となっている。これから生産費を差引いて、初年度の1期作8弗6仙、2期作5弗24仙、次年度の1期作19弗76仙、2期作25弗49仙の利純をあげた。

この様に、労力の節減と増収は機械力の導入と耕種法の改善により解決出来るものである。



- 上 大会を祝する来賓。前例左から小波蔵文、安里琉、シユワンテス博士、丸山氏、浜中氏。
- 中 カボチャジャムの作り方のデモンストレーションで、そのキッチン マナーは女性も顔負け(中農代表)。
- 下 レクリエーションで人気をばくした劇「子供たち」の一コマ(北農提供)。